

団体名：良城小学校・学校林活用委員会

活動名：学校林を活かした保護者の連帯感の醸成活動

代表者名 / 原 ^{はらひであき} 秀昭

所在地 / 山口市吉敷 1 5 1 5

活動紹介

活動の目的

私たちの住む吉敷は自然環境に恵まれた地域ですが、近年は新興住宅地として開け始め、学校の在籍児童数も年々増えマンモス化してきました。そのため、保護者の地域活動への参加・協力姿勢、学校活動への希薄化などが顕在化していました。

こうしたことを打破するため、学校林を活用して、
学校林を核とした保護者、地域住民との交流促進
学校林を活用した児童への情操教育(森林教育)の推進
学校林整備による榎野川流域における環境意識の向上、情報発信
を目的に体験活動を進めています。

これまでの活動の様子(内容)

良城小学校学校林は、昭和35年(1960年)に「校舎建て替え時に役立てる」ことを目的として、児童の手による植林、手入れが行われてきましたが、近年は木が大きくなり、手に負えなくなったことから荒廃していました。

平成15年10月に、先生方の要望とPTA、地域のみなさんの理解と協力、県、市などの関係機関との連携により、「良城小学校学校林再生プロジェクト」を創立しました。しかしながら、先生やPTA役員の中には、森林について詳しい方がいなかったことから、県、市、森林組合などの支援をいただきながら、腕に覚えのある?!地域住民、小学校保護者有志、学校関係者によって「学校林活用委員会」を立ち上げました。当委員会は学校林整備の企画立案を行う組織で、ここで企画した行事は、小学校、PTA、小学校おやじの会、地元自治会・林野委員、県、市、森林組合など、多くの組織の協力のもと、地域の力を結集(パワーアップ!)して活発に活動しています。

具体的な活動としては、年3回の整備作業を中心に、大人は、林内歩道整備、階段整備、ため池を望むウッドデッキ作りとハード面の充実を中心に活動しています。それと平行して、地域の昆虫博士の指導の下、学校林最上部に子どもたち自らが木を切りながら整備した「昆虫の森」があります。昆虫の森には、カブトムシ産卵ベッド、すみれ畑、しいたけ栽培、竹のハンモック、ブランコなどがあります。昆虫の森の整備には、毎回約40人の子どもたちが参加し、昆虫を通して、森林や私たちをとりまく環境を保全することの大切さを学んでいます。

また、公民館とのタイアップ事業、平成16年度には森林を活用した総合学習なども行ってきました。冬に行う整備作業では、地域の方にもお手伝いいただき、交流を深めています。

山に入ることがほとんどなかった子どもたちも貴重な体験ができるようになり、また、大人たちにとっても、今や地域のコミュニティの場となった学校林の協同作業を通じて、保護者、地域の方々との交流を深めています。

今後の展望

今年度で5年目の活動となりますが、10年を目指して地道に前へ進んでいくこととしています。やりたいことはたくさんありますが、まずは作業中の昆虫の森作り、ウッドデッキ作りをまずは完成させ、その後、ツリーハウス作り、新たな遊具作りを行う予定です。併せて、森林に親しむ行事も行いながら、保護者間、地域の方との交流を深めながら、森林とのふれあい、環境に心を向けてもらえるよう、頑張っていこうと思っています。



【整備作業後の集合写真】



【ウッドデッキづくり】